

県内経済の基調判断

2023年11月速報

最近の県内景況をみると、一部に弱い動きがみられるものの、全体としては緩やかに持ち直している。

概況

生産は弱含みの動きとなっている。需要面の動きをみると、公共投資は弱めの動きとなっている。住宅投資はこのところ反動などから減少している。個人消費は総じて緩やかに持ち直している。雇用情勢は持ち直しの動きに足踏みがみられる一方、一部では人手不足による影響が強まっている。

この間、企業の景況感は総じて持ち直しの動きとなっている。

(参考) 県内景況判断の推移

	2023年9月	10月	11月
総括判断	一部に弱い動きがみられるものの、全体としては緩やかに持ち直している (据え置き)	一部に弱い動きがみられるものの、全体としては緩やかに持ち直している (据え置き)	一部に弱い動きがみられるものの、全体としては緩やかに持ち直している (据え置き)
生産	弱含みの動きとなっている	弱含みの動きとなっている	弱含みの動きとなっている
公共投資	弱めの動きとなっている	弱めの動きとなっている	弱めの動きとなっている
住宅投資	このところ反動などから減少している	このところ反動などから減少している	このところ反動などから減少している
個人消費	総じて緩やかに持ち直している	総じて緩やかに持ち直している	総じて緩やかに持ち直している
雇用情勢	持ち直しの動きに足踏みがみられる一方、一部では人手不足による影響が強まっている	持ち直しの動きに足踏みがみられる一方、一部では人手不足による影響が強まっている	持ち直しの動きに足踏みがみられる一方、一部では人手不足による影響が強まっている
	2023年1~3月	4~6月	7~9月
企業の景況感	一部に弱い動きがみられるものの、総じて緩やかに持ち直している	総じて持ち直しの動きとなっている	総じて持ち直しの動きとなっている

注) 下線は前月(回)からの変更箇所

77BI

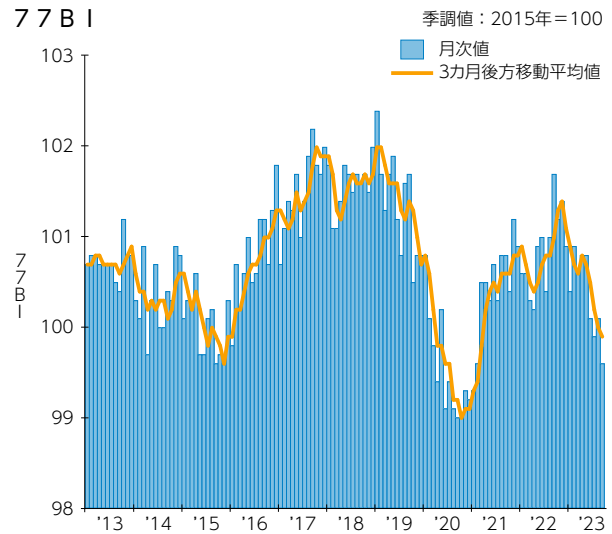
77BI (暫定値)は、弱めの動きとなっている。

9月の77BI (暫定値)は、前月比0.5ポイント低下の99.6となった。

採用指標別にみると、有効求人倍率は前月比上昇したが、宮城県消費動向指数、建築物着工床面積は前月比低下した。また、8月の鉱工業生産指数は前月比低下した。

一方、移動平均値 (3カ月後方) は、前月比0.1ポイント低下の99.9となった。

77BI



出典：当社作成 (以下も同じ)

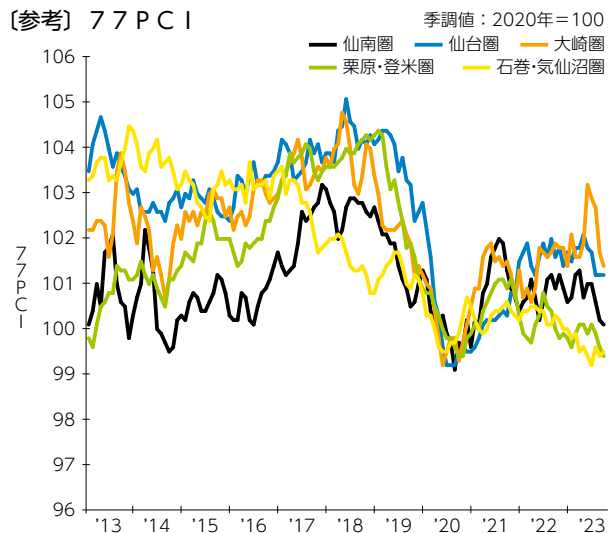
77BI (季節調整値、2015年=100)

	2023年7月	8月	9月
BI値	99.9	100.1	99.6
鉱工業生産指数	105.1	90.2	90.2
宮城県消費動向指数	96.9	108.6	100.9
建築物着工床面積	54.2	97.0	65.7
有効求人倍率	101.0	99.5	101.7

[参考] 77PCI (広域圏別景気指数) (季節調整値、2020年=100、前月比:%ポイント)

	2023年7月	8月	9月
仙南圏	▲ 0.4	▲ 0.4	▲ 0.05
仙台圏	▲ 0.5	▲ 0.05	0.03
大崎圏	▲ 0.2	▲ 1.0	▲ 0.3
栗原・登米圏	▲ 0.2	▲ 0.4	▲ 0.2
石巻・気仙沼圏	0.4	▲ 0.2	0.1

[参考] 77PCI



出典：当社作成 (以下も同じ)

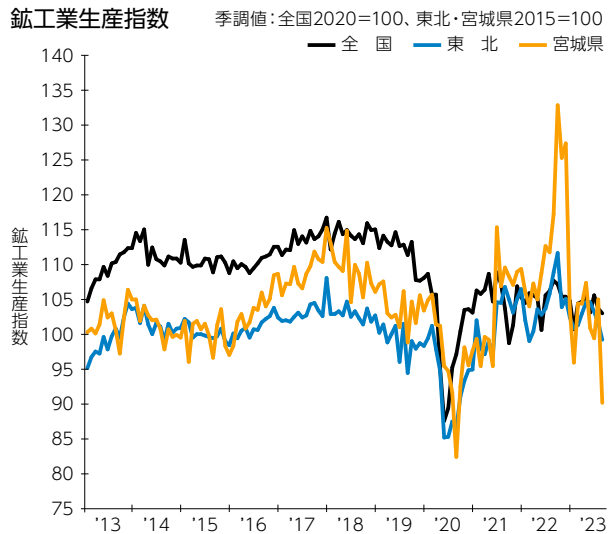
生産動向

鉱工業生産指数は、弱含みの動きとなっている。

8月の鉱工業生産指数は、前月比14.2%低下の90.2となった。業種別にみると、食料品工業が前月比マイナスとなったことなどから、2カ月ぶりに前月を下回った。

一方、前年と比較すると、汎用・生産用・業務用機械工業が前年を下回ったことなどから、全体では前年比23.2%の低下となり、4カ月連続して前年を下回っている。

鉱工業生産指数



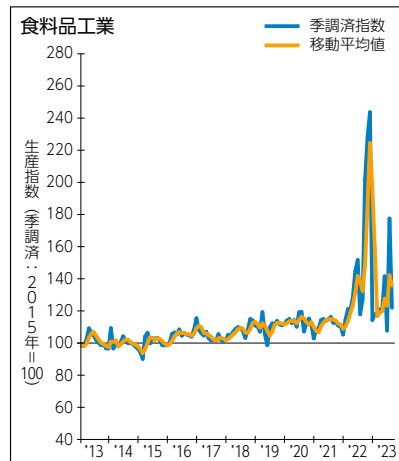
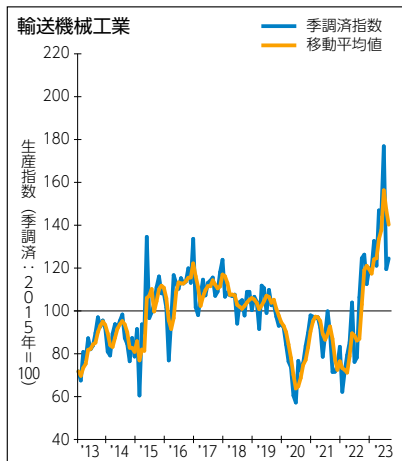
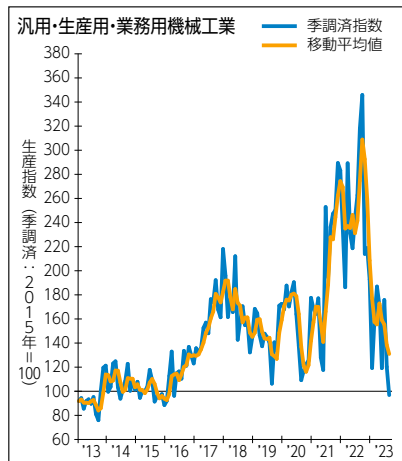
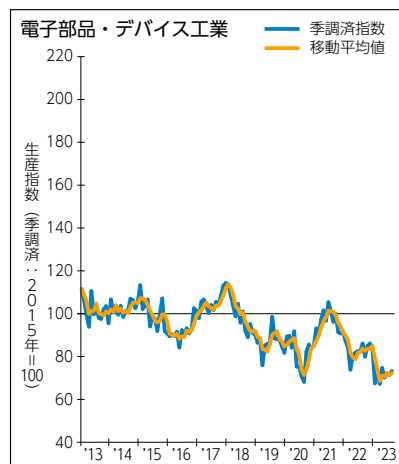
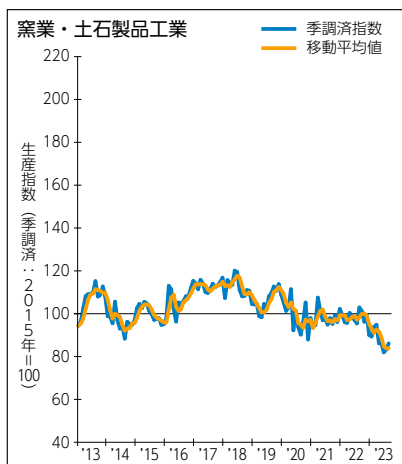
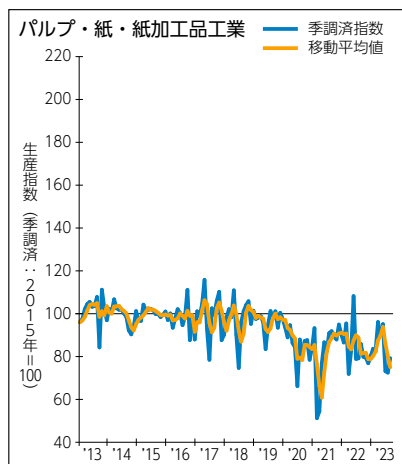
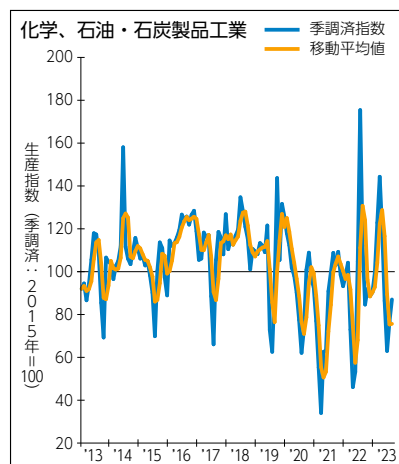
出典：宮城県企画部「宮城県鉱工業生産指数」(以下も同じ)

**鉱工業生産指数** (宮城県・東北2015年=100、全国2020年=100、季節調整済、前年比:%)

	2023年6月	7月	8月
宮城県	99.5	105.1	90.2
(前年比)	▲ 11.8	▲ 6.0	▲ 23.2
東北	103.3	101.8	99.3
(前年比)	▲ 0.5	▲ 3.9	▲ 8.9
全国	105.7	103.8	103.1
(前年比)	0.0	▲ 2.3	▲ 4.4

**主要業種別生産動向(宮城県)** (2015年=100、季節調整済、前年比:%)

業種	2023年6月	7月	8月
化学、石油・石炭製品工業	62.9	76.8	87.0
(前年比)	▲ 40.0	▲ 56.3	▲ 22.5
パルプ・紙・紙加工品工業	73.1	72.4	79.2
(前年比)	▲ 7.2	▲ 8.4	▲ 7.7
窯業・土石製品工業	81.9	83.3	86.1
(前年比)	▲ 15.6	▲ 12.6	▲ 16.3
電子部品・デバイス工業	72.1	71.4	73.2
(前年比)	▲ 12.5	▲ 13.1	▲ 15.0
汎用・生産用・業務用機械工業	175.7	120.1	96.6
(前年比)	▲ 27.9	▲ 54.3	▲ 69.6
輸送機械工業	177.0	119.5	124.5
(前年比)	2.3倍	52.7	17.1
食料品工業	107.7	177.6	121.9
(前年比)	▲ 29.0	50.8	▲ 4.2



**建設動向**

公共工事請負金額は弱めの動きとなっている。住宅着工はこのところ反動などから減少している。建築物着工は総じて水準は低下基調となっている。

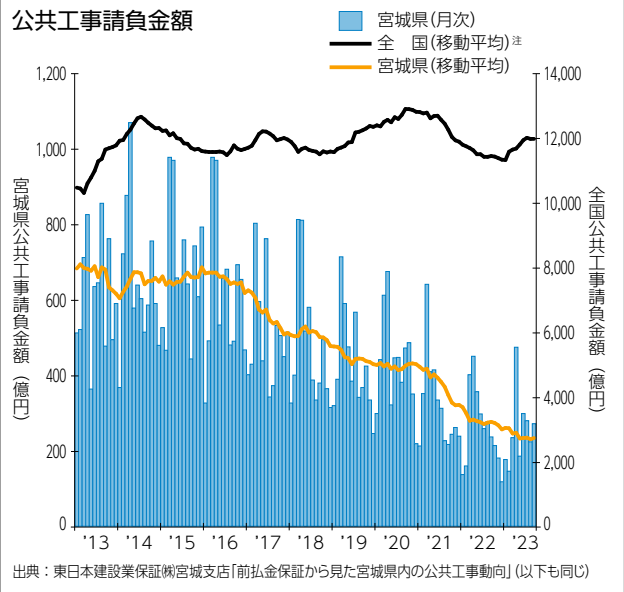
**公共工事**

9月の公共工事請負金額は、前年同月比14.6%増の272億円となり、2カ月ぶりに前年を上回った。発注者別にみると、国の機関では、同4.1%増の38億円と前年を上回った。

一方、地方の機関は、県が同80.2%増の124億円、市町村等は同16.6%減の111億円となり、全体で同16.4%増の234億円と前年を上回った。

また、震災前の2010年9月の請負金額（224億円）と比べた水準は21.5%増となっている。

公共工事請負金額



出典：東日本建設業保証(株)宮城支店「前払金保証から見た宮城県内の公共工事動向」(以下も同じ)

注) 12カ月後方移動平均値、以下のグラフも断りのない限り同じ

公共工事請負金額(発注者別) (前年比、%)

	2023年7月	8月	9月
宮城県	8.1	▲ 19.0	14.6
国の機関	▲ 36.6	3.8	4.1
県	43.4	▲ 44.3	80.2
市町村等	13.0	▲ 4.4	▲ 16.6
全国	6.8	▲ 3.6	0.1

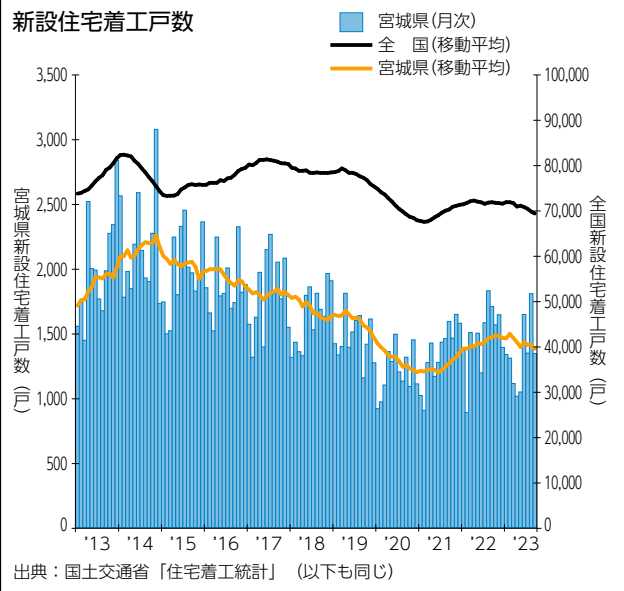
**住宅建設**

9月の新設住宅着工戸数は、前年同月比21.2%減の1,347戸（全国6.8%減、68,941戸）となり、3カ月連続して前年を下回っている。

利用関係別にみると、貸家が同7.8%増（763戸）と前年を上回ったが、持家が同6.9%減（364戸）、分譲が同63.9%減（220戸）と前年を下回った。

また、震災前の2010年9月の着工戸数（1,078戸）と比べた水準は25.0%増となっている。

新設住宅着工戸数



出典：国土交通省「住宅着工統計」(以下も同じ)

新設住宅着工戸数(利用関係別) (前年比、%)

	2023年7月	8月	9月
宮城県	▲ 14.8	▲ 1.3	▲ 21.2
持家	0.8	4.5	▲ 6.9
貸家	▲ 8.9	7.1	7.8
分譲	▲ 37.1	▲ 19.1	▲ 63.9
全国	▲ 6.7	▲ 9.4	▲ 6.8

新設住宅着工戸数(市部・郡部別) (前年比、%)

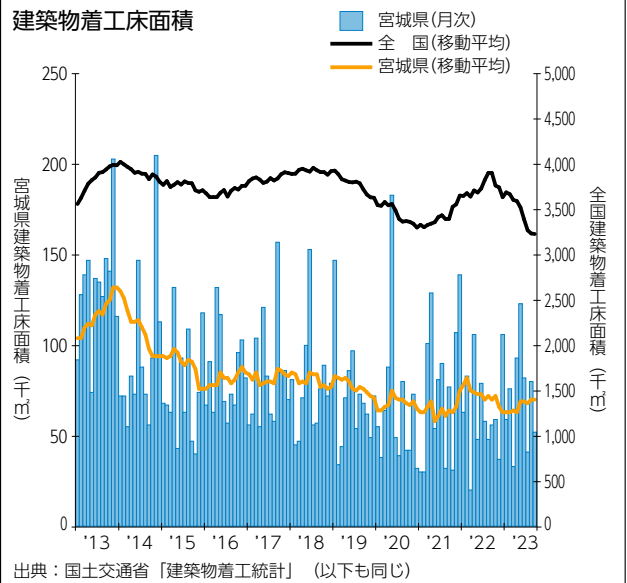
	2023年7月	8月	9月
市部	▲ 13.5	▲ 2.4	▲ 25.8
うち仙台市	▲ 19.7	▲ 14.1	▲ 23.6
うち仙台市以外	3.2	43.6	▲ 30.8
郡部	▲ 24.2	11.3	12.3

**建築物着工**

9月の建築物着工（民間非居住用）は、床面積が前年同月比7.5%減の52千㎡、工事費予定額は同1.7%減の140億円となり、床面積、工事費予定額とも2カ月ぶりに前年を下回った。

用途別に床面積をみると、事務所（4千㎡：前年同月比82.2%減）、倉庫（2千㎡：同39.4%減）などが前年を下回った。

建築物着工床面積



建築物着工床面積(用途別) (前年比、%)

	2023年7月	8月	9月
宮城県	▲ 29.5	67.9	▲ 7.5
事務所	▲ 60.7	▲ 62.2	▲ 82.2
店舗	▲ 42.9	11.6	3.3倍
工場	2.8倍	▲ 58.4	62.8
倉庫	39.4	10.7倍	▲ 39.4
その他	▲ 57.5	57.3	20.9
全国	▲ 31.1	▲ 11.5	▲ 2.0

建築物着工工事費予定額(用途別) (前年比、%)

	2023年7月	8月	9月
宮城県	▲ 12.0	38.1	▲ 1.7
事務所	▲ 64.1	▲ 66.5	▲ 81.8
店舗	▲ 59.8	38.5	4.3倍
工場	3.8倍	▲ 49.8	2.5倍
倉庫	54.5	7.5倍	▲ 56.6
その他	▲ 25.0	2.1倍	86.1
全国	▲ 14.4	▲ 8.8	24.0

**消費動向**

宮城県消費動向指数は持ち直しの動きに足踏みがみられ、小売業主要業態販売は底堅さがうかがわれる。乗用車新車販売は緩やかに持ち直している。

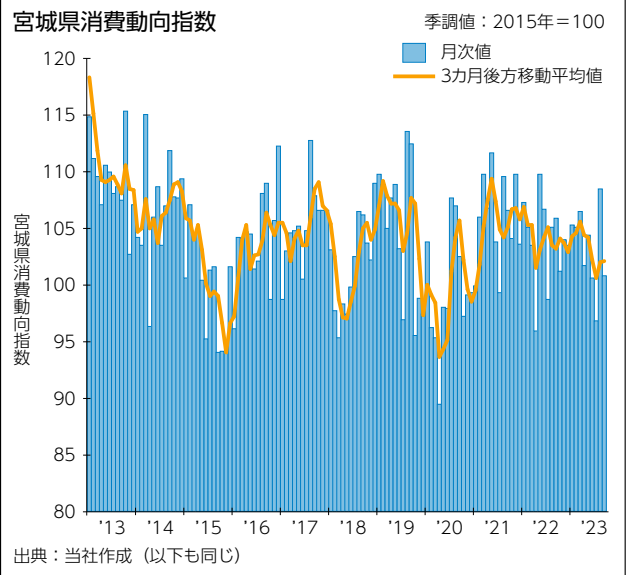
**消費動向指数**

9月の宮城県消費動向指数は、前月比7.7ポイント低下の100.9となり、2カ月ぶりに低下した。

消費費目別にみると、「教養娯楽」「家具・家事用品」などが低下した。

一方、移動平均値（3カ月後方）は、前月比0.1ポイント上昇の102.2となった。

宮城県消費動向指数



宮城県消費動向指数 (季節調整値、2015年=100)

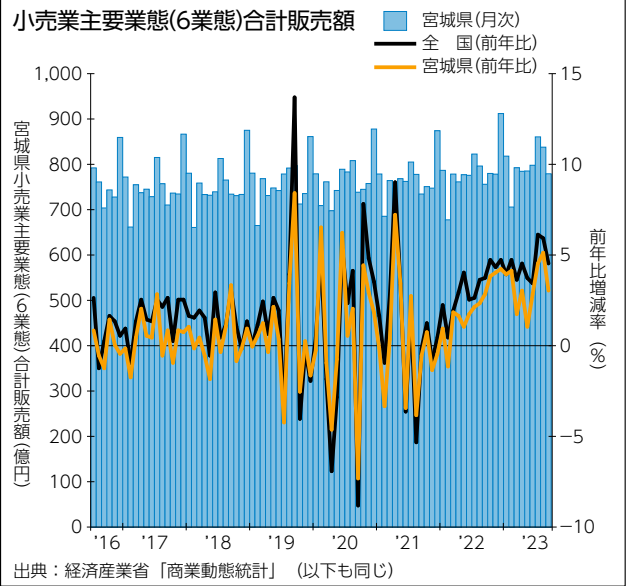
	2023年7月	8月	9月
消費動向指数	96.9	108.6	100.9
家賃指数	109.9	110.1	110.3
乗用車販売指数	74.1	99.5	83.1
コア消費支出指数	102.6	119.3	109.0

※消費動向指数は、宮城県内の個人消費動向をよりの確に把握するため、総務省「家計調査報告」などを使用して、個人消費動向を需要側から捕捉する指標として、当社が独自に作成した指数。

小売業主要業態販売

9月の小売業主要業態（6業態）の合計販売額（全店ベース）は、前年同月比3.1%増の783億円（全国4.6%増、4兆1,028億円）となり、19カ月連続して前年を上回っている。

業態別にみると、百貨店・スーパーは同2.2%増の321億円（全国4.8%増）となり、10カ月連続して前年を上回っている。コンビニエンスストアは同2.3%増の205億円（全国4.0%増）となり、19カ月連続して前年を上回っている。家電大型専門店は同4.3%増の57億円（全国0.4%減）となり、4カ月連続して前年を上回っている。ドラッグストアは同9.7%増の147億円（全国10.2%増）となり、30カ月連続して前年を上回っている。ホームセンターは同6.4%減の52億円（全国0.9%減）となり、前月に引続き前年を下回っている。



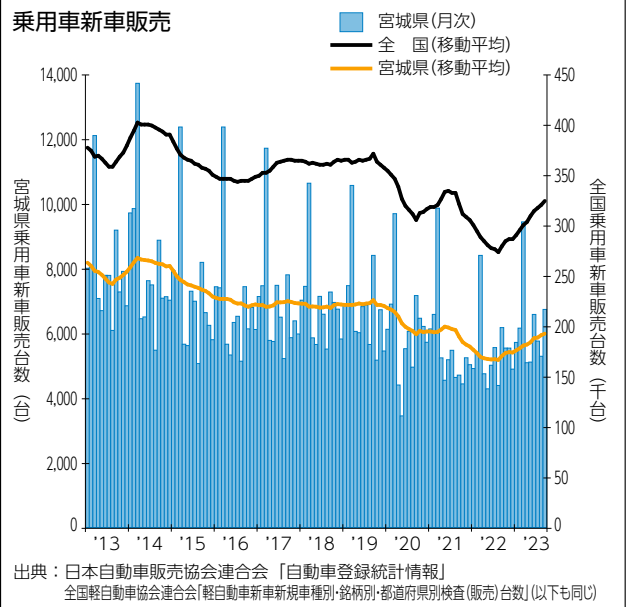
小売業主要業態販売額 (前年比、%)

	2023年7月	8月	9月
6業態合計(宮城県)	4.6	5.2	3.1
百貨店・スーパー	3.2	4.2	2.2
コンビニエンスストア	3.5	5.7	2.3
家電大型専門店	8.5	14.0	4.3
ドラッグストア	9.6	7.4	9.7
ホームセンター	1.0	▲ 3.7	▲ 6.4
6業態合計(全国)	6.2	6.0	4.6

注) 全店ベース

乗用車新車販売

9月の乗用車新車販売台数は、前年同月比9.1%増（全国11.8%増）の6,752台となり、9カ月連続して前年を上回っている。車種別にみると、普通車は、同18.4%増（全国18.2%増）の2,731台となり、9カ月連続して前年を上回っている。小型車は、同8.9%増（全国2.2%増）の1,802台となり、4カ月連続して前年を上回っている。また、軽乗用車は、同0.5%減（全国10.8%増）の2,219台となり、2カ月ぶりに前年を下回った。



乗用車新車販売台数 (前年比、%)

	2023年7月	8月	9月
宮城県	3.6	20.6	9.1
普通車	17.9	21.3	18.4
小型車	4.0	15.6	8.9
軽乗用車	▲ 12.8	24.0	▲ 0.5
全国	11.4	19.9	11.8

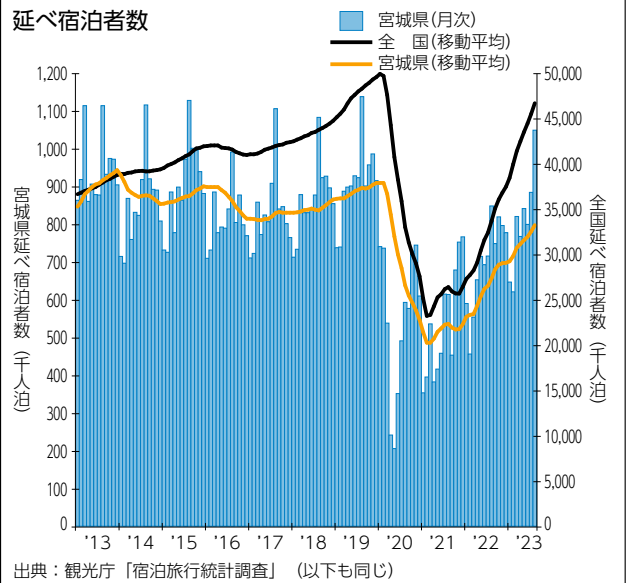
**観光動向**

8月の延べ宿泊者数は、前年同月比23.7%増の1,051千人泊となり、22カ月連続して前年を上回っている。

居住地別にみると、県内宿泊客は同8.8%減の241千人泊と2カ月ぶりに前年を下回り、県外宿泊客は同28.4%増の725千人泊と17カ月連続して前年を上回っている。

また、外国人の延べ宿泊者数は、同8.1倍の48千人泊となり、13カ月連続して前年を上回っている。

延べ宿泊者数



出典：観光庁「宿泊旅行統計調査」(以下も同じ)

延べ宿泊者数(居住地別) (千人泊)

	2023年6月	7月	8月
宮城県	801	886	1,051
うち県内客	222	225	241
うち県外客	521	599	725
うち外国人	44	44	48
全国	45,325	52,543	61,024
うち外国人	9,340	10,814	10,095

延べ宿泊者数(居住地別) (前年比、%)

	2023年6月	7月	8月
宮城県	15.5	23.5	23.7
うち県内客	▲ 13.2	4.9	▲ 8.8
うち県外客	22.6	22.2	28.4
うち外国人	15.3倍	15.9倍	8.1倍
全国	33.7	31.9	30.2
うち外国人	15.5倍	15.3倍	14.0倍

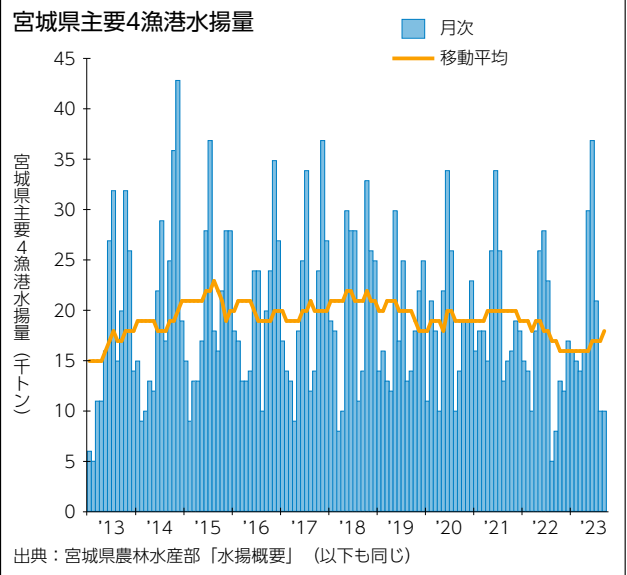
**水産動向**

9月の主要4漁港(塩釜、石巻、気仙沼、女川)における水揚げは、数量が前年同月比27.7%増の10千トン、金額が同33.1%増の49億円となり、数量は前月に引続き、金額は10カ月連続して前年を上回っている。

魚種別にみると、数量、金額ともカツオなどが増加した。

漁港別にみると、数量は全ての漁港で前年を上回り、金額は女川が前年を下回ったが、塩釜、石巻、気仙沼が前年を上回った。

宮城県主要4漁港水揚量



出典：宮城県農林水産部「水揚概要」(以下も同じ)

主要漁港水揚量 (前年比、%)

	2023年7月	8月	9月
合計	▲ 7.2	96.2	27.7
塩釜	▲ 64.6	▲ 19.0	10.0
石巻	▲ 43.6	2.5倍	23.6
気仙沼	67.6	2.0倍	40.1
女川	▲ 49.3	13.5	3.8

主要漁港水揚金額 (前年比、%)

	2023年7月	8月	9月
合計	0.8	40.7	33.1
塩釜	▲ 47.2	▲ 27.6	14.4
石巻	▲ 31.1	92.9	47.3
気仙沼	2.2倍	61.0	42.6
女川	▲ 47.4	47.5	▲ 14.6

貿易動向

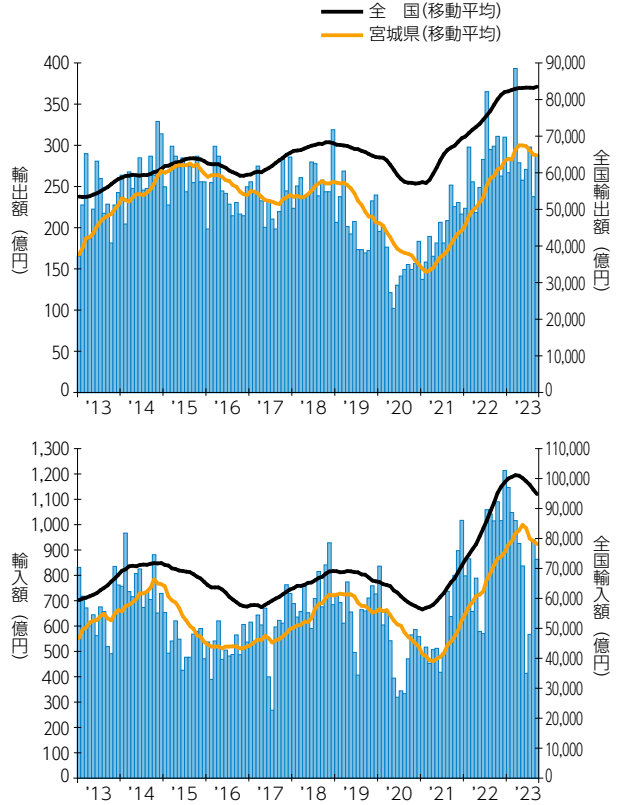
9月の貿易額（仙台塩釜、石巻、気仙沼の各港および仙台空港における通関実績）は、輸出が前年同月比3.4%減の288億円、輸入が同15.0%減の861億円となった。

輸出は有機化合物が減少したことなどから4カ月連続して前年を下回っている。一方、輸入は原油・粗油が減少したことなどから4カ月連続して前年を下回っている。

輸出額・輸入額 (前年比、%)

		2023年7月	8月	9月
宮城県	輸出	▲ 18.3	▲ 19.3	▲ 3.4
	輸入	▲ 46.5	▲ 9.7	▲ 15.0
全国	輸出	▲ 0.3	▲ 0.8	▲ 4.3
	輸入	▲ 13.6	▲ 17.7	▲ 16.3

宮城県内貿易動向



出典：横浜税関「横浜税関管内貿易速報」(以下も同じ)

物価動向

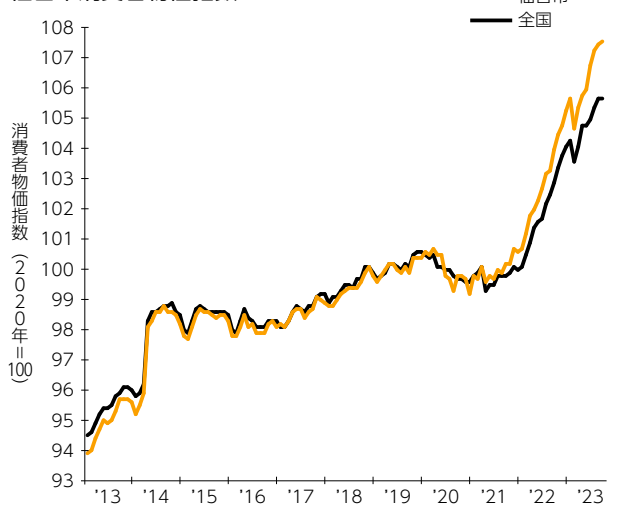
9月の仙台市消費者物価指数（生鮮食品を除く総合）は、前年同月比3.5%上昇の107.6となり27カ月連続して前年を上回っている。

費目別にみると、「生鮮食品を除く食料」などが上昇した。

消費者物価指数(費目別) (前年比、%)

	2023年7月	8月	9月
生鮮食品を除く食料	10.8	10.5	9.3
住居	2.5	2.5	2.5
光熱・水道	▲ 7.5	▲ 10.3	▲ 12.0
家具・家事用品	6.8	7.5	6.1
被服および履物	4.9	5.9	3.5
保健医療	2.0	3.2	3.6
交通・通信	2.3	4.0	4.5
教育	0.3	0.3	0.3
教養娯楽	5.0	5.3	4.9
諸雑費	1.1	1.5	1.3

仙台市消費者物価指数



注) 生鮮食品除く総合  
出典：宮城県企画部「仙台市消費者物価指数」(以下も同じ)

消費者物価指数(生鮮食品を除く総合) (前年比、%)

	2023年7月	8月	9月
仙台市	4.0	4.0	3.5
全国	3.1	3.1	2.8

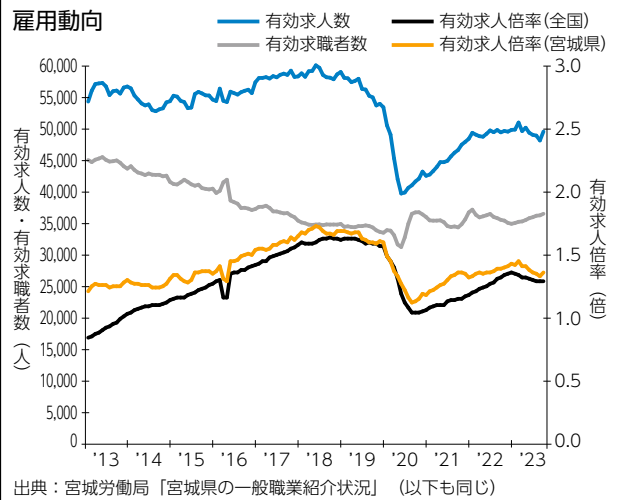


**雇用動向** 雇用情勢は持ち直しの動きに足踏みがみられる一方、一部では人手不足による影響が強まっている。

9月の有効求人倍率（季節調整値）は、前月に比べ有効求人数が増加したことなどから、前月比0.03ポイント増加の1.36倍となった。

また、新規求人数を産業別にみると、前年に比べてサービス業、卸売業・小売業などが増加した。

有効求人倍率（原数値）を職業安定所別にみると、仙台（1.55倍）、築館（1.54倍）などが1倍を上回っている一方、大河原（0.68倍）、塩釜（0.78倍）などは1倍を下回っている。



有効求人倍率等 (倍、%)

	2023年7月	8月	9月
有効求人倍率(宮城県)	1.35	1.33	1.36
(全国)	1.29	1.29	1.29
新規求人数(前年比)(宮城県)	▲ 3.0	▲ 3.1	3.8

注) 有効求人倍率は季節調整値、新規求人数は原数値

職業安定所別有効求人倍率 (原数値、倍)

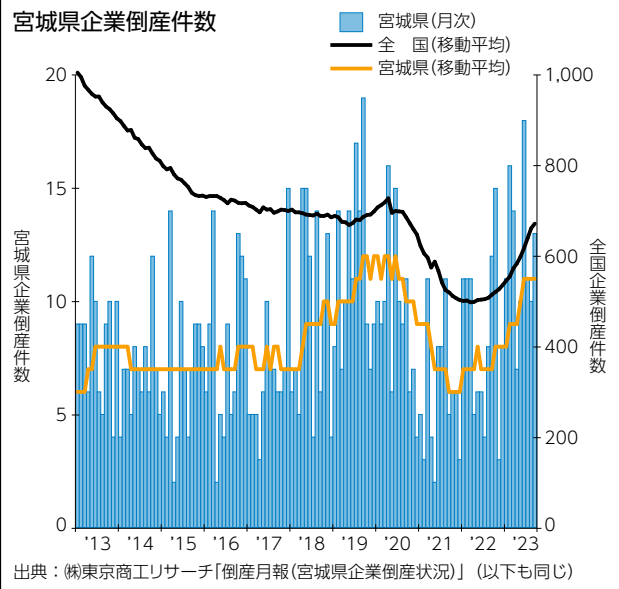
	2023年7月	8月	9月
気仙沼	1.25	1.21	1.22
石巻	1.28	1.34	1.36
塩釜	0.74	0.79	0.78
仙台	1.52	1.55	1.55
大和	1.43	1.37	1.38
古川	1.10	1.14	1.11
築館	1.38	1.47	1.54
迫	0.88	0.91	0.92
大河原	0.69	0.68	0.68
白石	1.32	1.35	1.44

**倒産動向** 9月の企業倒産（負債総額1千万円以上）は、件数では前年同月比8.3%増の13件、負債額では同5.5倍の31億円となった。

倒産企業を業種別にみると、サービス業他が5件、卸売業、運輸業が各2件などとなっている。

主因別では、販売不振が12件、放漫経営が1件となっている。

地域別では、仙台市が7件、石巻市が3件などとなっている。



企業倒産件数・負債額 (件、百万円)

		2023年7月	8月	9月
宮城県	件数	11	10	13
	負債額	3,532	1,154	3,060
全国	件数	758	760	720
	負債額	162,137	108,377	691,942

企業倒産件数・負債額 (前年比、%)

		2023年7月	8月	9月
宮城県	件数	2.8倍	25.0	8.3
	負債額	4.1倍	▲ 64.6	5.5倍
全国	件数	53.4	54.5	20.2
	負債額	91.7	▲ 2.7	4.8倍

人口動向

10月1日時点の宮城県の人口（推計人口）は、前年同月比16,002人減の226万3,552人となり、30カ月連続して前年を下回っている。

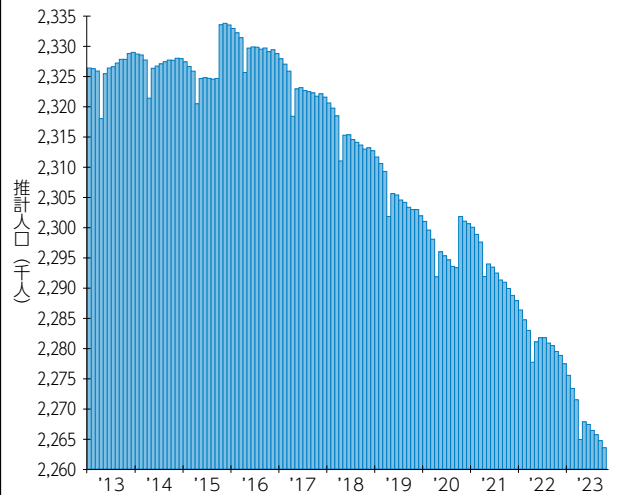
人口動態別にみると、ここ1年間で自然増減は1万6,592人減、社会増減は590人増となった。

市町村別にみると、前年に比べて人口が増加したのは、名取市（102人増）の1市、減少したのは石巻市（2,089人減）、大崎市（1,705人減）など34市町村となっている。

また、震災前の2011年3月1日現在の人口（234万6,853人）と比べると、県全体では8万3,301人減となっている。

市町村別にみると、仙台市（5万1,077人増）、名取市（5,277人増）など7市町村では増加したが、石巻市（2万6,231人減）、気仙沼市（1万5,741人減）など28市町では減少している。

宮城県人口動向



出典：宮城県企画部「宮城県推計人口」（以下も同じ）

宮城県人口 (人)

	2023年8月	9月	10月
総人口	2,265,724	2,264,736	2,263,552
自然増減	▲ 1,033	▲ 1,202	▲ 1,209
社会増減	328	214	25

注) 総人口は各月1日時点、自然・社会増減は前月中の増減数

宮城県内市町村の人口動向(推計人口)

(人)

	2011年3月 ①	2022年10月 ②	2023年10月 ③	前年比 ③-②	震災前比 ③-①		2011年3月 ①	2022年10月 ②	2023年10月 ③	前年比 ③-②	震災前比 ③-①
宮城県	2,346,853	2,279,554	2,263,552	▲ 16,002	▲ 83,301	村田町	11,939	10,325	10,100	▲ 225	▲ 1,839
仙台市	1,046,737	1,099,239	1,097,814	▲ 1,425	51,077	柴田町	39,243	37,687	37,537	▲ 150	▲ 1,706
石巻市	160,394	136,252	134,163	▲ 2,089	▲ 26,231	川崎町	9,919	8,062	7,907	▲ 155	▲ 2,012
塩釜市	56,221	51,263	50,736	▲ 527	▲ 5,485	丸森町	15,362	11,548	11,222	▲ 326	▲ 4,140
気仙沼市	73,154	58,756	57,413	▲ 1,343	▲ 15,741	亘理町	34,795	32,973	32,704	▲ 269	▲ 2,091
白石市	37,273	31,688	31,004	▲ 684	▲ 6,269	山元町	16,608	11,749	11,578	▲ 171	▲ 5,030
名取市	73,603	78,778	78,880	102	5,277	松島町	15,014	12,955	12,718	▲ 237	▲ 2,296
角田市	31,188	27,040	26,643	▲ 397	▲ 4,545	七ヶ浜町	20,353	17,677	17,422	▲ 255	▲ 2,931
多賀城市	62,990	62,664	62,653	▲ 11	▲ 337	利府町	34,279	35,168	35,068	▲ 100	789
岩沼市	44,160	43,819	43,544	▲ 275	▲ 616	大和町	25,366	28,783	28,517	▲ 266	3,151
登米市	83,691	73,624	72,150	▲ 1,474	▲ 11,541	大郷町	8,871	7,632	7,474	▲ 158	▲ 1,397
栗原市	74,474	62,142	60,697	▲ 1,445	▲ 13,777	大衡村	5,361	5,655	5,536	▲ 119	175
東松島市	42,840	38,504	37,966	▲ 538	▲ 4,874	色麻町	7,406	6,409	6,307	▲ 102	▲ 1,099
大崎市	134,950	124,670	122,965	▲ 1,705	▲ 11,985	加美町	25,421	21,155	20,806	▲ 349	▲ 4,615
富谷市	47,501	51,483	51,436	▲ 47	3,935	涌谷町	17,399	14,743	14,437	▲ 306	▲ 2,962
蔵王町	12,847	11,043	10,807	▲ 236	▲ 2,040	美里町	25,055	23,334	23,004	▲ 330	▲ 2,051
七ヶ宿町	1,664	1,217	1,172	▲ 45	▲ 492	女川町	9,932	6,173	6,094	▲ 79	▲ 3,838
大河原町	23,465	23,565	23,533	▲ 32	68	南三陸町	17,378	11,779	11,545	▲ 234	▲ 5,833

※「推計人口」とは、国勢調査人口をベースとして、住民基本台帳法に基づき届出等があった出生・死亡、転入・転出の数（日本人のほか外国人も含む）を加減して算出した人口（推計人口は各月1日時点）  
 自然増減数＝出生者数－死亡者数 社会増減数＝転入者数－転出者数